

科目名	小児聴覚障害					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 聴覚障害の分類、原因と発達段階に沿った聴力検査の方法、補聴器の装用と聴能訓練について学び、療育と就学問題、家族の援助方法について考察する。									
【実務者経験】 姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として小児の聴覚障害分野リハビリの従事経験。									
【授業全体の内容の概要】 小児期の聴覚障害と言語発達への影響について理解できる。障害特徴と評価・訓練・指導の基本的知識および国家試験に則した基礎知識を身につける。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 小児を中心に聴覚障害の特徴を理解し、リハビリテーションに必要な評価法、指導法の基本を習得する。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	小児期の聴覚障害とリハビリテーションの考え方								
2	聴覚障害の発見と診断								
3	難聴の発症時期と障害								
4	難聴ハイリスク因子、二次的障害								
5	早期リハビリテーションについて								
6	小児の指導・訓練 A. 小児聴覚障害の特徴、B. STの役割								
7	小児の指導・訓練 C. コミュニケーションと言語習得、D. 聴覚活用と聴覚学習								
8	小児の指導・訓練 E. 聴覚障害児の音声言語獲得上の課題								
9	小児の指導・訓練 F. リハビリテーションプログラムの立案								
10	小児の指導・訓練 G. 子どもの発達段階と学習方法 H. 言語発達段階								
11	小児の指導・訓練 I. 乳児期の指導：前言語期段階								
12	小児の指導・訓練 J. 幼児期の指導：言語習得段階								
13	小児の指導・訓練 K. 学童期の特徴								
14	小児の指導・訓練 K. 学童期の特徴 書記言語学習指導								
15	まとめ								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害 聴覚障害学』第2版 医学書院									
【準備学習・時間外学習】 授業前後の予習復習を要します。									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。									